交流情宣はじまる

支部長と本部役員 職場・地域へ

会社の赤字宣伝とたくみに織りまぜたPRが職場、地域へ浸透しているが、三鉱連では全六山が足なみをそろえて態勢を確立するため、十八日より三鉱連大会をひらくことになった。三池ではいちはやく緊急態勢確立のため、執行部を総動員して教宣の徹底にあたつたが、去る十二日から各支部長を主体にした交流情宣を開始、職場、地域に進出してさいごの態勢かためをおこなつている。

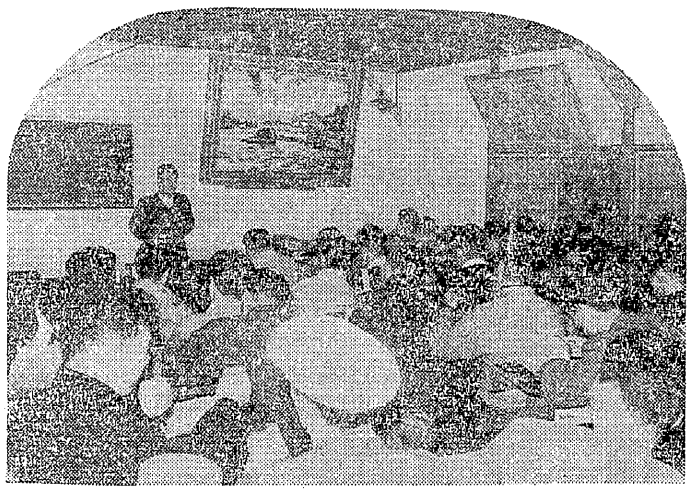
まず、交流情宣は十二日午後三時一番方から四山からはじめられた。各支部長、本部からは三役をまじえた執行委員が集中的に一支部を対象に、当面する諸問題の説明を中心に、職場や地域で質疑応答をくりひろげた。十二日四山、十三、四日三川支部でおこなわれた。このあとちょうど三鉱連大会がひらかれるので、大会期間中は一時中止、大会終了後、すでに二支部でおこなわれた成果をもとにして、さらに充実した情宣を残りの支部にくりひろげることとなつた。

初日、職場での情宣には本所、宮浦支部長が出席、この日一番方上りの乙方掘進、カツペ、運搬の人たちを二会場にわけて情宣がおこなわれた。

すでに一応の情宣は終了しており、こんどの問題についてはみんな一応は分かつているのだが、さすがに緊迫した当面する問題の説明が詳細になされると、みんな熱心に耳をかたむけている。

職場と併行して、夜は各地域でおこなわれているが、会社の経営立直し策については、組合員も主婦も非常に関心をよせていることが各会場の雰囲気からひしひしと感じられた。

だが、その関心にしても悲壮なものではなく、やはり、闘いはわれわれの中から組織して行かねばならないという、はつきりした態度があらわれているようであつた。



四山保安講堂での交流情宣（カツペ、運搬関係）

職場を飾る菊花

旭町電氣で愛好者が

菊の花がいまをさかりと咲き乱れ見る人の目を楽しませているが、本所支部旭町電気分会の操入場には、約六十鉢ぐらい菊が飾られ、殺風景な職場に華やかな香りをただよわせている。

これは同職場の菊花愛好者の手によつて飾られ展示されたものだが三、四年前から毎年おこなわれている。

戸外作業がほとんどのため、残業でくたくたに疲れた体で職場に帰つてくるのは、夜の七時八時というのも少くはない。荒々しい職場の雰囲気では心を慰めてくれるものとてない。そういうことから職場に季節の花でも飾つて、疲れた身心を少しでも慰めてやろうということから、この展示が毎年はじまつたのである。

菊だけでなく朝顔の季節となると早速朝顔がズラリとならべられる朝顔愛好者とくらべると菊は育てるのが難かしいのか、人数も減つて十名近くだという。昨年までは会社と職場委員が展示されたものを審査して順位をつけていたが、ことしはこれをやめてフリーとしている。

約六十鉢の菊には一輪あり四輪あり、派手な大雪渓にまじつて、糸桜がおのおの目もあやなほど美をきそつている懸崖も出品され職場での歴示会としては申し分のないものである。

職場をあとに戸外作業に出発しようとする人たちも〃きれいだなア〃と口々に感歎の言葉をもらしながらウツトリとしていた。

〃即売会が魅力よ〃

革商〃四山主婦会と懇談

労商提携は口を酸つぱくするほど叫ばれているが、実績はなかなかあがつていない。お金が入れば革商連以外の店で買う、松屋の包装紙につつまれた品物を得々として家にもつて帰る、革商連で買うのはチケットのときだけ……。これでは革商連以外の店で買うのだろうか。主婦会四山支部では労商提携をもつと深めるため、お互いに腹をわつて話合おうと外来もふくめた全地域を対象に、さる十一月一日宮内集会場を皮切りに、主婦と革商連の懇談会をひらいた。十会場、九日間にわたり、十一日の鷲分会での最終日まで、松屋の対策はどうするか、社宅内の行商、革商連非加盟店の対策など、細かな点まで話合つたが、松屋の包装紙につつまれた品物を下げているのが恥ずかしくなるようなところまで行かねばだめだと、いろいろな有意義な意見が出され、革商連育成強化にとんごは強力に立上ることとなつた革商連関係としては荒尾地区が主なため、ほとんど荒尾関係から出席、大牟田の方からも坪井会員が出席した。

以下、この懇談会で話されたものから主な問題をひろつてみると、労商提携がうまく行くようにはどうしたらよいか、うまく行かない論路はどんなところにあるでしょうか、これを分けると

○松屋対策

品物が豪富であり遊園地、店内の清潔、即売品が安い、食堂がある友の会がありこれに加入するとサービスされる。などが魅力となつている。私たちはあくまでも労働者であるという気持を忘れずに、同じ考えで進んでいる革商連を育成強化するという立場で物を考えねばならぬ。また革商連としても一店だけの繁栄は願つていず、革商というデパートのつもりでおり横のつながりを発展させて行き、こんど年四回ぐらい大廉売会を催し、革商友の会の結成、包装紙も統一するなどで、魅力をもたせる

○社宅内の出張販売

こんど日常販売するときは施策をつけてもらう。

○社宅内の行商

現在毛布、夜具、化粧品などが主に入りこんでいるが、行商分はどうしても利潤が多くかかつていることに注意しなければならない。

○革商連加盟店の対策

労働者と同じ気持をもつているという革商連の認識をあらたにするとともに、それだから革商連に加盟する店がふえれば、それだけ自分たちの周囲で、労働者に協力する団体がつよくなることにもなるので、みんなで積極的に加入をすすめて行く。

などが話合われた。なお十三日に九日間にわたつて話合つた結論をまとめることになつているが、このことは、この話合いのなかで欠陥となつているのをあらため、労商提携へ邁進することとなつた。

【写真は鷲町集会所での懇談会】

勉強の大切さ

私はある会合に出席してこういうことを耳にしました。

「大地評傘下の労働者は、大衆のなかでは組織の決定に協力的ですが、家庭に帰つたとたん保守的となる。これは労働者としての連帯感、労働者意識の欠除と思うが、地評として研究してほしい」

私はこれをきいて、これは反省しなければいけないと心に釘打たれました。私どもが主婦会活動をするなかでも、このことはいえるのです。こんど、主婦会自体としても研究課題ではないでしようか。私は積極的でない会員の一人ですが、あの言葉を耳にして何かしら恥ずかしい気持になり、もう少し勉強しなければとつくづく思いました。

政治について無感覚なので政治について口走るのを嫌がつたり、家庭のことで一日追われることが本当の家庭婦人であるかのようにかんがえ、いろんな集会に参加しないのは視野の狭ばまるばかりです。もう少し進歩的な主婦にならなければいけないのではないでしようか。平和活動にしても少し活動が活発になると〃あの人はアカではなかろうか？〃なんて……。

私はこれではいけないと思います。勤評反対、警職法改悪反対にしても、将来戦争へのつながりのある改悪ならば党派をこえて反対に立上らなければならないと思うのですもちろん、私どもが今までに折角つみあげてきた組織も破壊され、婦人の権利も奪われることはいうまでもありません。戦前、戦争中の歴史をくり返すことのないように、私たちの生活と権利と自由を守るために、いろんな点で勉強して闘つて行くことが私たちの生活をよりよくすることではないでしようか。こういうことをじつくりかんがえる時期ではないかと反省しているものの一人です。

宮浦 N

救援物資贈る

衣類二万点水害地へ

三鉱労組と主婦会では、さきの台風二十二号で未曾有の惨状を呈した静岡地方への救援に立上り、各地域で衣類、現金カンパをおこなつていたが、カンパ物資は本部大会議室に集約され、梱包の結果、衣類二万点（九十三梱包）、現金二万五千円が集まつた。

本部では早速、去る八日この救援物資を現地に急送したが、国鉄大牟田支部の協力で貨車積みし、発送した。

図書館に早替り

利用者多い巡回図書

暦の上ではすでに冬に入つたが、秋から初冬にかけては書から燈火親しむ候などといつて、読書のシーズンでもある。宮浦、四山、三川、製作の図書館は連日利用者がおしかけているが、四山支部では現在保育園よこの図書館のほかに早くから巡回図書制度をもうけ、各地域に出張図書館をつくつて利用者に便を供しているが、よくに四山支部では鷲、宮内、大平など山間部の不便な社宅では、とかく文化に恵まれない傾向もあるところから、ひじようにこの巡回図書はよろこばれている。

図書館では現在、一週間の半分、すなわち火水木か水木金のどちらかを巡回にあて、係が一人でこれを担当している。

現在、巡回しているのは山吹、敷島、大平、宮内、鷲の各分会だがこの分会は図書を利用するにしても、あまりにも本館から離れているためである。なかでも、鷲、宮内の両分会には、若干の本を地域に保管させ、地域分会の自主性で地域で図書館をひらいている。

巡回図書は一カ月三回行われるので、一地域に月三回はまわつてくるわけであり、集会所は図書館この日は早変りする。

借出し状況は地域によつて違うが山吹、敷島、大平では平均日に七十冊が利用される。

主婦、二、三番方の組合員と利用者もまちまちだが、朝九時四十五分ごろから開館、午後三時の閉館になつているが、さすがに十二時前後が一番多く、混雑で転手古舞いするのもこの時刻である。

懇談会につめかけた鷲の主婦たち

〃新年文芸〃を募集

「みいけ」編集部では例年どおり新年文芸募集を次の要領で行いますので多数ご応募くださるよう期待いたしております

△創作 四百字詰二十枚以内、選者＝真鍋呉夫
入選一席千五百円、二席千円、三席七百円

△詩 一人二篇以内、選者＝中野秀人
入選一席七百円、二席五百円、三席三百円

△短歌（題、自由） 五首以上十首以内 選者＝渡辺順三
入選一席五百金、二席四百円、三席三百円

△俳句（題、自由） 五句以上十句以内
選者＝栗林一石路 賞金は右に同じ

△川柳（題、自由） 五句以上十句以内
選者＝九里三作 賞金は右に同じ

△感想文（題、自由）主婦もふくむ 四百字詰四枚以内、編集部選 賞金は右に同じ

△児童綴方（題、自由） 四百字詰二枚以内
編集部選 賞品進呈

△写眞（題、自由） 一人三点まで
大きさはキヤビネ 編集部選
入選一席五百円、二席四百円、三席三百円
その他各種佳作にも謝礼進呈

※締切り＝十二月六日

※宛先＝三鉱労組本部編集部および各支部教宣部

※発表＝新年号「みいけ」文芸特集号紙上

（なお、選者はいま交渉中です）

真相はこうだ

池田氏報告会開く

松川事件上告審口頭弁論は、最高裁はじまつていらい異例のものとされ、全国民から注目を浴びているが、各弁護士は被告の無実を連日堂々と口述、事件の裏にひそむ陰謀をつぎつぎと国民の前に暴している。

三川支部池田昭二氏は、無実の罪で裁判の公正を闘つているこの松川の闘いを、なるだけ多くの組合員に事件の裏にひそむ陰謀、裁判の内容など、事件の真相をつたえるため、十一日午後四時から組合二階の会議室で〃松川事件報告会〃をひらいた。

報告会にさきだち、氏は事件関係書類を高さにして一尺余りも読破研究している。この日、各被告の判決表や現場附近の詳細な地図を作つて持参、強制自白とそれにからむ警察の動き、判決文の非科学性をするどくつき、巧みな話しぶりで事件の報告をおこない、出席者に大きな感動をあたえた。

（写眞はこの日の報告会場）